

Vol. 153

TIFA会報

立川国際友好協会発行

発行責任者 木下 究
編集責任者 的場正道

ホームページ

<https://tifa-class.net/>

外国人に日本語を教えるボランティア団体

Tachikawa International Friendship Association

2023年度 開講にあたって

■ 木曜教室部長 柏田泰利

〔期初在籍：講師 22 名 受講生 34 名〕

過去3年間、新型コロナウイルス感染防止のために「3密回避」と「教室の定員数の50%制限」を遵守し、運営



を行ってきました。1人でも多くの受講生を受け入れるため受講生を2組に分けて、各組は隔週授業の方法で実施しました。結果、授業での感染者はいません。

現下の感染状況の好転を考慮、今年度から受講生は毎週授業に戻したので、その出席人数は約2倍に回復し正常化します。引き続き新型コロナの状況を注意しながら教室運営をします。授業内容に関しては、それぞれの担当講師が受講生の来場目的を丁寧に把握し、授業を進めるのは従来通りですが、講師の教える力の向上も必要です。また、別の課題として、日本語が初級レベルの受講生と、受講生の母語がほとんど分からない担当講師との相互理解の向上があります。近年進んでいるスマホによる「単語」や「簡素な文章」の多言語変換を、授業の道具に取り入れていくことについて、その利用価値を検討したいと思っています。

■ 土曜教室部長 佐藤民江

〔期初在籍：講師 24 名 受講生 27 名〕

昨年度は、通常のマンツーマンスタイルの他に小集団で学ぶスタイルを目指して、「座談会型学習」を行いました。

講師陣の入念な準備により、受講生は「日本語で伝える喜び」を味わいました。これをきっかけに日常生活を振り返る受講生の姿もありました。このような積極的な学びの姿は、講師陣の提供する授業にも変化を求めているともいえます。座談会記録は図書ボックスやHPで保存、閲覧できます。

新型コロナウィルス感染症予防対策は、教室の運営にも種々の制限をもたら



したけれど、新たな観点で運営を見直すチャンスであるはず。そこで今年度は、受講生と共に学習を創っていきたいと思います。具体的には、「授業における話題を受講生にも設定してもらう」「地域の中で国籍を問わず共に助け合う力を育てる」等が考えられます。「学びたい」という熱い思いを「共に生きる力」に醸成していきましょう。

■ 西砂教室代表 岡田良雄

〔期初在籍：講師 15 名 受講生 17 名(内OL9名)〕

昨年6月、当時まだ猛威を振っていた新型コロナ感染のリスクを抱えながらも、アクリル板の設置やマスクの配布、検温等、できる限りの感染



防止対策をとり授業を続けてきました。幸いクラスターの発生もなく再び緑の季節を迎えることが出来たのは、講師・受講生の協力の賜物であり、喜びを共に分かち合いたいと思います。

TIFA30周年記念事業として講師研修制度が上程されていますが、西砂教室はまだその期に達していません。しかし、今後外国人の入国規制緩和とともに本格的な活動の到来が想定されます。教室の取り組みとして講師のスキルアップにスポットを当てたいと思います。活動推進の為に作業部会を設け、講師の疑問等に答えていきたいと考えています。受講生は①日本語能力試験を目指す者②日常会話の上達を目標とする者③初心者でこれから始める者④オンライン受講生の4つに分類され、それぞれに対応した指導教材や指導方法を探るとともに、①～④に共通した日常会話教材と指導にも焦点を当てていきたいと思っています。

木曜教室 柳井 泉

母の教え

「わたしは にほんごをだらけ みてきました」??

この奇妙な日本語は、私が 50 年以上も前に渡仏する際、亡き母が一つのエピソードとして話してくれた言葉です。

母は若い時東京の病院で助産婦として働いていましたが、在仏日本大使に同伴し渡仏するよう要請があったものの戦争が始まり、渡仏は取消しになったとのことでした。その頃、ある駐日ドイツ大使が日本を去るときのスピーチで、文頭の日本語を話されたそうです。どこでどんな状況でこのコロケーションらしきものを覚えたのでしょうか。



母は、こんな感じで仏語を覚えたつもりで話すことのないよう教えられたそうですが、私にも同じことを伝えなかったようでした。

大学卒業を前に卒論の仕上げに奮闘していた 12 月、私に親戚の者から「フランスに行ってみないか?」との話がありました。文化庁から外交官として在仏大使館勤務になり、家族のサポートをするというものでした。当時、外交官家族は、随行員として同伴させるのが一般的でした。

私は英文学専攻で第二外国語はドイツ語だったので、仏語の ABC (アーベーセー) も全くわからず、フランスの知識も乏しいものでした。友人がくれた仏和、和仏辞典と従兄が大学で使った仏語のテキストを持って、オルリー空港に降り立った 1971 年 2 月 25 日の翌日から、仏語の海を泳ぐ日々が始まりました。

土曜教室 奥田正博

TIFA と私

あるカンボジア人：

「日本は貧しい国ですね」

床屋の主人：

「なぜですか」

カンボジア人：

「日本では 60 歳を過ぎた人がたくさん働いていますね。私の国では 60 歳を過ぎたらほとんど働きません」

新聞の投書欄の記事です。

70 過ぎてまだ働いている私は考えさせられました。



「70 過ぎて働くのは貧しい?」リタイア後を考えて TIFA に入会し 6 年が過ぎましたが、一度も「貧しい」などと感じたことはありません。体調面で厳しいですが何とかやっています。リタイア後の過ごし方は色々です。余裕があって悠々自適、趣味で忙しくしている人。ボランティアで張り切っている人。やることなく鬱になる人もいます。仕事中はやりたいことも我慢せざるを得ない。その意味ではリタイア後が本当の自分の人生。60 歳を過ぎて仕事をしていても即それが「貧しい」というのは違うと思います。

60 歳を過ぎた頃からやりたいことは何だろうと考え始め、思い出しました、小さい頃親戚のおじさんから「学校の先生になれ」と言われたことを。先生にはなりませんでしたが、そんなこともあって TIFA に参加しました。外国から日本に来て日本で暮らそうという方は今後も増えます。その様な人達の役に立てることにやりがいを感じます。活動を続け、より良い方向に広げてゆきたいものだと思っています。

西砂教室 片野和江

会話の力

私は 3 年前に一念発起して英会話の勉強を再開しています。

英語の読み書きの勉強をすれば英語を読み書きする能力は身に付いても、英語を話せるようにはならないと、日本の英語教育の欠陥をよく耳にします。

コロナ禍で時間ができたこともあり、パソコンでチェックしてみると、YouTuber さんをご親切に「英語のヒアリング力、スピーキング力をアップする方法」や「誰でも簡単に英語が話せる」など英会話力アップの情報を、動画付きで YouTube に載せてくれているではありませんか。しかも無料です。それだけでは英会話を磨くのは無理かなと思い、安くて長く続けられそうなオンライン英会話コースを選び続けています。

話は変わりますが、10 数年前に、娘が英国人と結婚しロンドンに住んでいる関係で向こうの方々と手紙やメールのやりとりをしてきたのですが、ここ数年ライン等で話す機会が増えてきました。向こうの言っているとても簡単なことが、よく聞き取れないことにショックの連続です。

ひるがえって、日本語を教室で教えている身として、日本語を学びに来る外国人の方々のニーズにこたえると同時に、やはり言葉はまず日本人と会話を楽しめること、コミュニケーションが取れることが一番大事なことだなあと考えております。



マダガスカルの風 第1回

2019年4月～2021年3月迄 TIFA に在籍し、現在 JICA 幼児教育隊員としてマダガスカルで活動している塩入綾子さんに、現地レポートを寄稿して頂きました。本号から3回シリーズで掲載します。(的場)

JICA 海外協力隊 塩入綾子



任国 マダガスカル共和国 Republic of Madagascar
任 期：2022年4月～2024年4月

概要 アフリカ最大の島国 日本の国土面積の約1.6倍
人 口：約28百万人
首 都：アンタナナリボ 人口300万人規模
公用語：マダガスカル語・フランス語
経 済：最貧国の一つ

人口の93%が1日当たり2米ドル以下で生活

はじめまして、塩入綾子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。以前、私が幼稚園に勤務していた際に外国籍の子どもたちが増えて異文化の相互理解の大切さを経験しました。次第に途上国と日本の教育や環境の違いなどにも関心を持つようになり、何か私でもできることがあればという思いなどがありました。

現在、私の配属先は国民教育省事務所です。地域は SabotsyNamehana サブチナメアナ。主に近隣地域の公立幼稚園を巡回しています。国民教育省は、教育行政を担っています。要請内容は、

道徳・衛生教育・社会教育です。具



体的には情操教育の実践、遊びを通して学びを伝えることです。マダガスカルへ到着してから約1カ月の語学訓練がありました。苦手な語学訓練後はそれぞれの配属先の任地へ移動しました。散歩していると近所の方は「Manahoana tompoko!」こんにちは!と優しい笑顔の挨拶で迎え入れてくれて、マダガスカル人の気さくな人柄が表れています。6月にはマダガスカルの独立記念日で盛大な花火やお祭りがあり、人々の様子もいつもとは違い陽気な様子でした。

マダガスカルはアジアに一番近いアフリカと言われ



ています。主にアフリカ系、アジア系、アラブ系の方とマダガスカル人を見かけます。

私の住んでいる首都アンタナナリボ地域は中央高地です(標高約1300メートル)。街では、妊産婦さんや乳幼児を大切に抱きかかえている家族の光景をよく見かけます。また、路上では幼い子どもたちが無邪気に遊んでいるのが印象的です。

大通りや市場では、早朝から新鮮な野菜や季節の果物が豊富で陳列の仕方が面白いです。生みたての卵・肉(生きたままの鶏類)・魚・乾物・米・穀物・動物用の穀物・くすり屋・靴修理屋・洋裁屋・食堂・珈琲スタンドなどが集結しています。



私はマダガスカルの早朝の活気溢れる市場で、お店の人との掛け合いや掘り出し物を見つけたりするのが大好きです。マダガスカル人の主食はお米で、種類も豊富です。食事は3食以外に午前と午後に(goût er)グーテというおやつの時間があり、大人も子どもたちも珈琲やドーナツなどを食べる習慣があります。

私は途上国生活は初めてなので、マダガスカルでの日常生活に戸惑い、慣れるまで少し時間がかかりました。現地の方々は、今の生活で過ごしていても不満を口にしている印象が少ないです。ライフラインは停電・断水がありますが、今はロウソクでの生活にだいぶ慣れてきました。

Manaraka indray! マダガスカル語で(マナラカインジュライ!)日本語で(また今度!)という意味です。Misaotra tompoko! (ミサウチャ トンプコ)ありがとうございます。 <次号に続く>

土曜教室 節分

立春の2月4日(土)、恒例の節分を祝いました。開始前に節分のプリントが配られ、鬼や豆まきの「いわれ」などを学びながら、賑やかに交流を楽しみました。



授業紹介 初級かるたをやりました！

土曜教室 佐藤尚美

かるたは、人数が少ないと楽しくないので、他のボランティア、受講生に協力していただき、1月7日に行いました。



取り札は、絵札と文字札の2種類。「行きますので形」と言ったら、「行って」の札を取り、「ねこ」と言ったら、「ねこ」の絵の札を取る、というシンプルなものです。

今回の授業目標は、「て形、ない形、辞書形、た形の復習と身近な単語を覚える」でした。かるたは聞いて札を取るゲームなので、「橋と箸」「美容院と病院」「チーズと地図」など聞きとりにくい単語も入れ、聴解の要素もプラスしました。

授業の一環としてゲームをやる時は「ただ楽しいだけにならないように」を心がけています。楽しさを追及しすぎると、焦点がぶれてしまうので、気をつけています。また、通常の授業同様、教案（のようなもの）は作ります。市販のものでは、受講生にちょうどよいものはなかなか見つからないので、手作りするのも楽しみの1つです。

土曜教室 座談会型学習 病院と病気

3月4日（土）、初めての企画として座談会形式の授業が行われました。16名の受講生は4グループに分かれ、講師は司会進行、記録、日本語指導など受講生の支援に携わりました。各グループは「病院について」「病気について」「病気の予防」の3テーマからそれぞれ1つを選んで、ざくばらんに話し合いました。



司会のリードで活発な発言が交わされ、話が通じた時は納得の声が聞かれました。受講生からは、座談会について、ポジティブな感想が述べられました。

- ・言葉が通じ嬉しかった。楽しかった。またやりたい。
- ・雰囲気良かった。日本語のスキルアップになる。
- ・日本や各国の事情が分かり勉強になった。
- ・教室仲間と会話を通じて仲良くなり、友達になった。
- ・テーマの設定もとても良かった。いい体験ができた。

みんなの知識を集めて、分からない事やうまく通じない事を理解しようとするのは心弾む作業でした。日本語習得にとって大きな学習効果が期待され、次回開催を望む声が多数聞かれました。（詳細記録 HP 掲載）

木曜教室 スピーチ会

3月17日（木）と24日（木）の2回に分けて、学習館作業室に於いて、スピーチ会が開催されました。2回とも6名ずつの学習者がスピーチを行いました。



みんなの前で日本語で話をするのは、初めての人も多かったと思いますが、母国にちなんだテーマや自己紹介、母国と日本との違い、日本での生活などを、それぞれの日本語にして、一生懸命に話してくれました。



日本語習得の進捗は、みなさん違いますが、受講生はちょっとした緊張感をもって、ボランティアは終始とても和やかに、教室中が楽しく過ごせました。



＜発表テーマ＞

- ・自己紹介
- ・パンダについて
- ・日本での思い出
- ・私の国について
- ・公共交通機関について
- ・子供の頃の思い出
- ・私たちの生活について
- ・TIFAの授業に参加して

News 立川市外国人住民の人口

2023年1月1日現在 国籍別 単位：人

中国	2,100	インドネシア	138
韓国	727	台湾	126
ベトナム	508	朝鮮	93
フィリピン	398	ブラジル	67
ネパール	268	その他	540
米国	159	総数	5,124

*立川市総人口：185,483人 外国人比率：2.76%

*外国人数：2013年 3,294人 2022年 4,723人

ホームページ QRコード

立川国際友好協会



西砂教室

